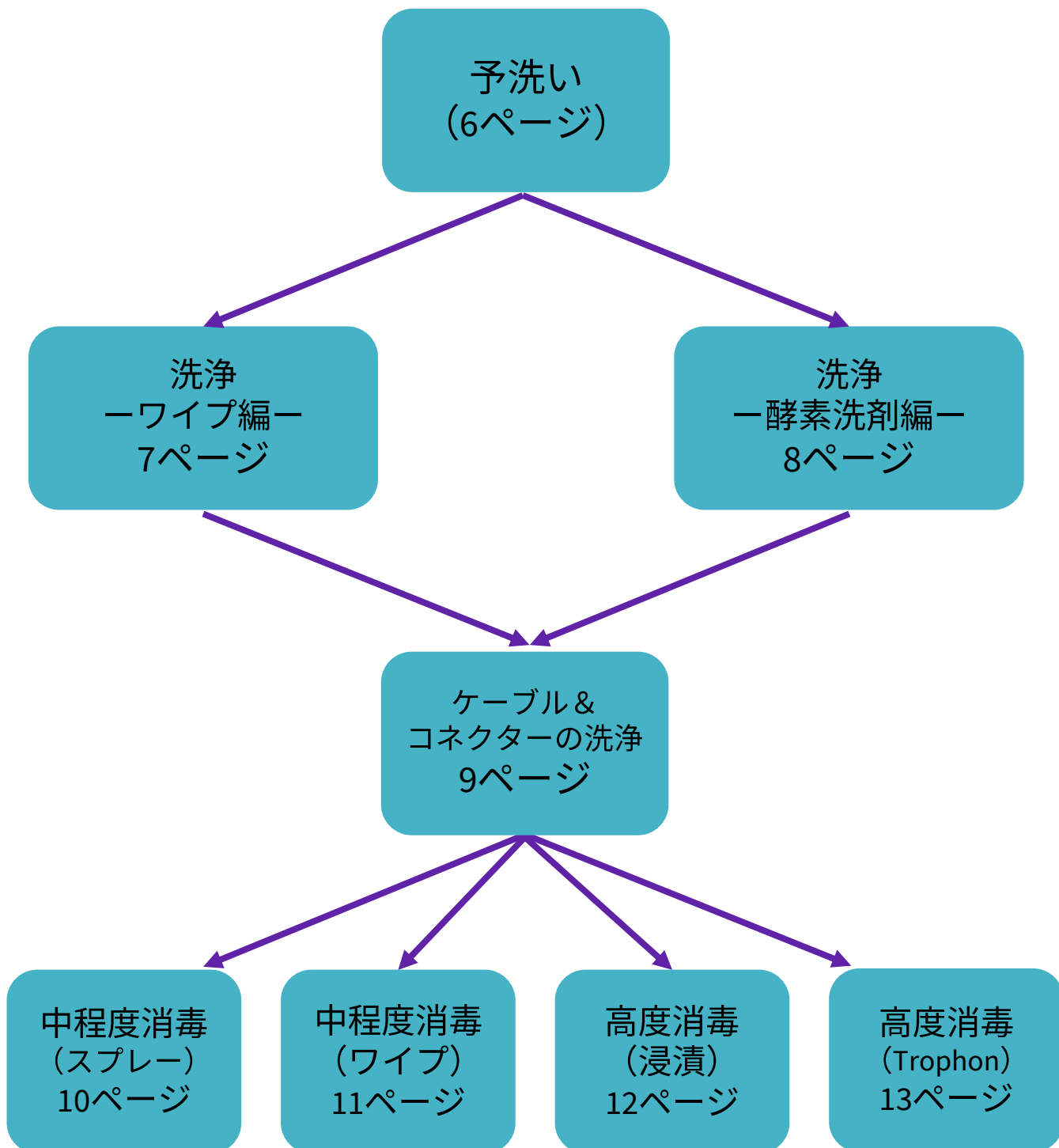


# 超音波プローブの洗浄/清拭と消毒方法

	内容	詳細	ページ
1	プローブの洗浄/ 清拭と消毒の流れ		5ページ
2	予洗い	プローブ使用時または使用后、ゲルが残っていたり汚れがひどい場合	6ページ
3-1	洗浄－ワイプ編－	予洗いの後のワイプを使用した洗浄	7ページ
3-2	洗浄－酵素洗剤編－	予洗いの後の洗浄酵素を使用した洗浄	8ページ
4	ケーブルとコネクターの洗浄		9ページ
5-1	中程度消毒－スプレー－	感染症の可能性のある場合、また傷などがある皮膚または粘膜（体腔内、経食道など）に接触するプローブには、高度消毒（6-1または6-2）をご参照ください	10ページ
5-2	中程度消毒－消毒ワイパー	感染症の可能性のある場合、また傷などがある皮膚または粘膜（体腔内、経食道など）に接触するプローブには、高度消毒（6-1または6-2）をご参照ください	11ページ
6-1	高度消毒－浸漬－	感染症の可能性のある場合、また傷などがある皮膚または粘膜（体腔内、経食道など）に接触するプローブの場合	12ページ
6-1	高度消毒－Trophon® 2－	感染症の可能性のある場合、また傷などがある皮膚または粘膜（体腔内、経食道など）に接触するプローブの場合	13ページ

# 1. プローブの洗浄/清拭と消毒の流れ



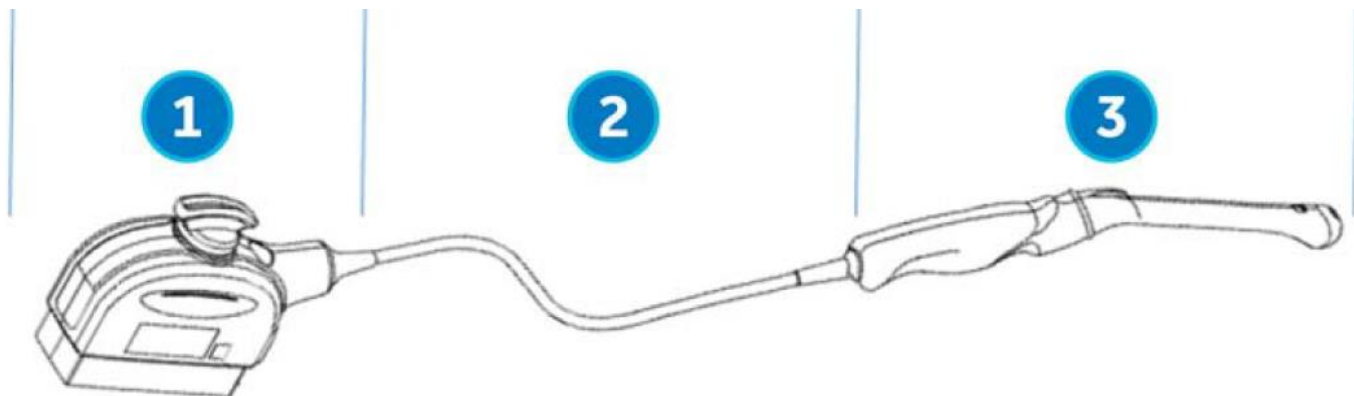
プローブ使用時または使用后、ゲルが残っていたり汚れがひどい場合に行ってください

## 2. 予洗い

1. 柔らかい布でプローブに付いているすべての超音波ゲルを拭き取ってください。
2. プローブ消毒対応に記載されている、いずれかのワイプで下図③を拭いてください。

研磨剤  
禁止

※プローブの表面にある穿刺ホルダ用のくぼみなどは、柔らかいナイロン製ブラシにきれいなワイプを巻き付けて拭いてください。



3. 上記②③は水道水を湿らせた布または1-3ページに記載された消毒剤またはワイプで清拭して下さい。

※過度の湿気に曝されると損傷するおそれがあります。

過度の  
湿気禁止

※プローブコネクタの超音波画像診断装置に差し込む基板部分、またはラベルは濡らさないで下さい。

取扱  
注意

洗浄剤は金属腐食をもたらす危険があります。コネクタのピン等に洗浄剤が付着しないように気を付けて下さい。

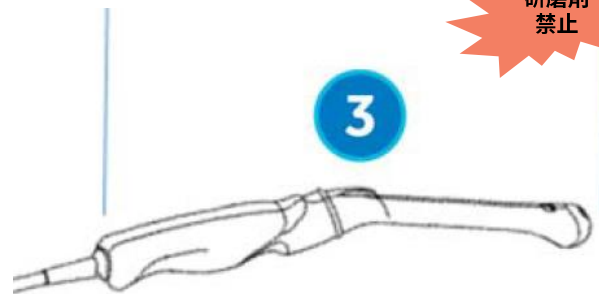
※ワイプを使用して長期間清掃すると、ケーブルが変色する可能性があります。安全性および機能性には問題ありません。

4. 水道水で湿らせた布で拭いて、化学残留物を取り除いてください。

## 予洗いの後のワイプを使用した洗浄

### 3-1. 洗浄ーワイプ編ー

1. 新しい手袋を着用し、新しいワイプを取り出します。
2. 患者に接触する超音波レンズ面をワイプで拭いてください。
3. プローブ全体をしっかりと拭いたら、新しいワイプで再度③を拭いてください。くぼんでいるところ、継ぎ目、および出っ張っているところはワイプを絞って、消毒液をたらして拭いてください。
4. 汚れが落ちていない場合はきれいになるまで上記3~5を繰り返してください。



## 予洗いの後の洗浄酵素を使用した洗浄

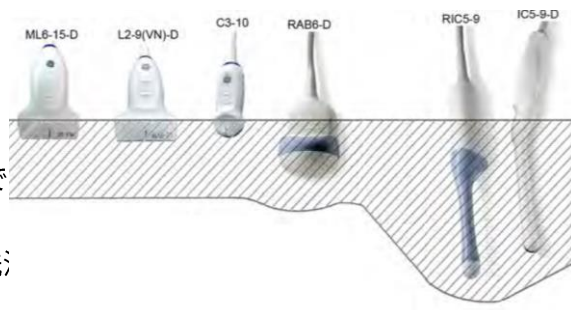
### 3-2. 洗浄—酵素洗浄編—

1. プロブが超音波本体から取り外されていることを確認してください。
2. 清潔な手袋を着用し、下図の通りプロブを浸漬ラインまでぬるま湯（30～40℃）に浸漬させてください。

※右図は一部のプロブを例としています。

お使いの超音波画像診断装置の取扱説明書に  
接続プロブの浸漬レベルが記載されていますので  
ご参照ください。

※記載されている浸漬可能範囲以外の部分を、水や洗  
液体に浸漬しないでください。



3. 1-3ページ示されております洗剤の製造元の説明書に従って洗浄液を調製して下さい。

4. プロブを3.の洗浄液に浸漬ラインまで浸して、  
表面に気泡が付着していないことを確認してください。

5. 前頁図面の③（超音波レンズ面を除く）まで、  
清潔で柔らかいナイロン毛ブラシでブラッシングして  
から洗浄と消毒を行うと、より効果が上がります。

6. 洗剤の製造元の浸漬許容時間に従ってプロブを浸漬、  
またプロブをブラッシングしてください。

7. プロブ汚れがないか目視確認しながら、手順3～5を繰り返して下さい。

8. ぬるま湯（30～40℃）を流しながらプロブを2分以上すすぎ、洗浄液が残っていないこ  
とを確認してください。

9. 清潔で柔らかい乾いた布やワイプを使用して、プロブを完全に乾かして下さい。

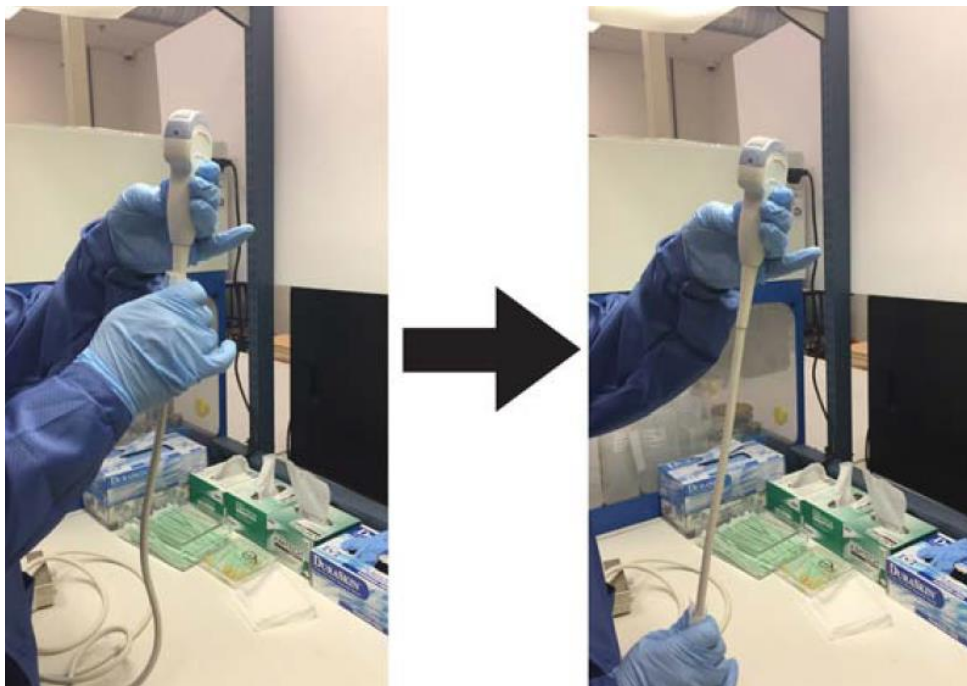


レンズ面  
ブラシ禁止

## ケーブルとコネクタを洗浄するときの手順

### 4. ケーブルとコネクタの洗浄

1. コネクタは細心の注意を払って清掃してください。**過度の湿気禁止**
2. 1-3ページに示されている洗浄剤またはワイプで清掃してください。
  - 取扱注意** ※洗浄剤は金属腐食をもたらす危険があります。コネクタのピン等に洗浄剤が付着しないように気を付けて下さい。
  - 取扱注意** ※ワイプを使用して長期間清掃すると、ケーブルが変色する可能性があります。安全性および機能性には問題ありません。
3. 水道水で湿らせた布でケーブルとコネクタを拭いて、化学残留物を取り除いてください。



本ページは中等度の消毒方法であり、感染症の可能性のある場合、また傷などがある皮膚または粘膜（体腔内、経食道など）に接触するプローブには、高度消毒が必要です。

## 5-1. 中程度消毒 - スプレー

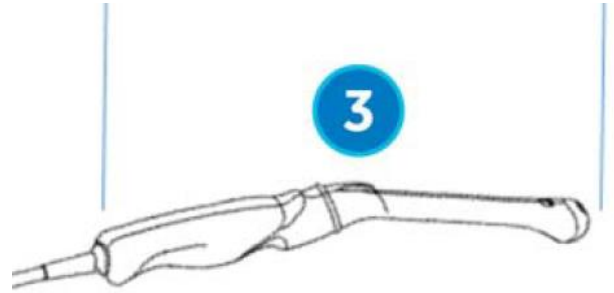
1. 新しい手袋を着用し、新しいワイプまたは布を、消毒液を十分にスプレーして湿らせます。
  2. 患者に接触する超音波レンズ面に湿らせた布で拭いて下さい。
  3. プローブ全体をしっかりと拭いたら、新しい布または消毒剤で湿らせ、再度③を拭いてください。
- プローブの方向マーカ―や滑り止め、穿刺ガイド  
取り付け部などのデコボコしている箇所には、消毒剤を直接スプレーして濡らしてください。
4. さらに新しい布またはワイプを消毒剤で湿らせ、これらの製造元からの浸漬許容時間に従ってプローブを拭き続けてください。とくに凹凸部や突起部には消毒剤を何回もスプレーしてください。
  5. 柔らかいワイプまたは布を使用して、プローブの表面全体を拭いて乾かします。
  6. 柔らかいワイプを脱イオン水または精製水で濡らし（しずくが垂れない程度にしっかりと絞ってください）、プローブの表面全体をしっかりと拭いて、化学残留物を取り除きます。
  7. 合計3回すすぎ、新しいワイプと水を使用して、ステップ6をあと2回繰り返します。
  8. 柔らかいワイプまたは布を使用して、プローブの表面を拭いてください。必要に応じてワイプ/布を交換して、プローブを必ず完全に乾かします。
  9. プローブをすぐに再使用しない場合は、プローブが再汚染されないように保管してください。



本ページは中等度の消毒方法であり、感染症の可能性のある場合、また傷などがある皮膚または粘膜（体腔内、経食道など）に接触するプローブには、高度消毒が必要です。

## 5-2. 中程度消毒 - スプレー

1. 新しい手袋を着用し、新しいワイプを取り出します
2. 患者に接触する超音波レンズ面をワイプで拭いてください。
3. プローブ全体をしっかりと拭いたら、新しいワイプで再度③を拭いてください。くぼんでいるところ、継ぎ目、および出っ張っているところはワイプを絞って、消毒液をたらして拭いてください。
4. さらに新しい3枚目のワイプを使用して、これらの製造元からの浸漬許容時間に従って、プローブ表面が乾かないように必要な枚数のワイプを使用して拭き続けてください。また凸凹部や突起部にはワイプを絞って消毒剤を垂らして拭いてください。
5. 柔らかいワイプまたは布を使用して、プローブの表面全体を拭いて乾かします。
6. 柔らかいワイプを脱イオン水または精製水で濡らし（しずくが垂れない程度にしっかりと絞ってください）、プローブの表面全体をしっかりと拭いて、化学残留物を取り除きます。
7. 合計3回すすいぎ、新しいワイプと水を使用して、ステップ6をあと2回繰り返します。
8. 柔らかいワイプまたは布を使用して、プローブの表面を拭いてください。必要に応じてワイプ/布を交換して、プローブを必ず完全に乾かします。
9. プローブをすぐに再使用しない場合は、プローブが再汚染されないように保管してください。

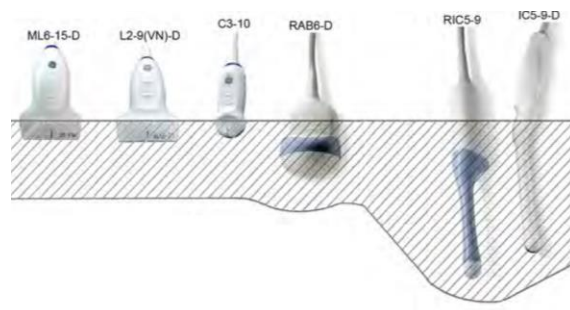




本ページは中等度の消毒方法であり、感染症の可能性のある場合、また傷などがある皮膚または粘膜（体腔内、経食道など）に接触するプローブには、高度消毒が必要です。

## 6-1. 高度消毒—浸漬—

1. プローブが超音波本体から取り外されていることを確認してください。
2. 清潔な手袋を着用し、消毒剤製造元の説明書に従って希釈した高度消毒剤をシンクまたは洗面器に注ぎます。
3. 超音波画像診断装置の取扱説明書に記載されているプローブ浸漬可能範囲まで浸すことができるくらいまで注いでください。



※粘膜に接触するすべての半侵襲的プローブ(粘膜または傷などがある皮膚に接触するプローブ)には、高度消毒が必要です。

※高度消毒で浸漬できない半侵襲的プローブは、二次汚染を避けるために低度または中程度消毒が必要です。

※右上図は一部のプローブを例としています。お使いの超音波画像診断装置の取扱説明書に接続プローブの浸漬レベルが記載されていますのでご参照ください。

※記載されている浸漬可能範囲以外の部分を、水や洗浄剤などの液体に浸漬しないでください。

2. プローブを消毒剤に浸漬レベルまで浸して、空気や気泡がつかないことを確認します。消毒剤メーカーの使用説明書に記載されている浸漬許容時間に従って、プローブを消毒剤に浸してください。
3. プローブを十分な量の滅菌精製水で1分以上すすいでください。プローブを取り出し、すすぎ水を廃棄します。水を再使用しないでください。
4. 手順3をあと2回繰り返し、合計3回すすいで下さい。すすぎの度に必ず新しい水を使用してください。
5. 柔らかいワイプまたは布を使用して、プローブの表面を拭いてください。必要に応じてワイプ/布を交換して、プローブを必ず完全に乾かします。
6. プローブをすぐに再使用しない場合は、プローブが再汚染されないように保管してください。

**消毒剤製造元の  
指示時間厳守**

本ページは中等度の消毒方法であり、感染症の可能性のある場合、また傷などがある皮膚または粘膜（体腔内、経食道など）に接触するプローブには、高度消毒が必要です。

## 6-2. 高度消毒—Trophon® 2—

1. プローブが超音波本体から取り外す必要はありませんが、非アクティブ（使用できない状態）に設定してください。

**研磨剤  
禁止**

2. 柔らかく乾いた布またはワイプでプローブを十分に乾かしてください。

3. プローブの置き方と Trophon システムの操作については、Trophon の説明書に従ってください。

※プローブが Trophon チャンバーの壁に接触しているとプローブが破損することがあります。

4. Trophon の高度消毒サイクルが完了したら、新しい手袋を着用して、Trophon 装置からプローブを速やかに取り外して下さい。

**速やかに  
取り出す**

5. プローブを柔らかく乾いた布またはワイプで拭いて、プローブ表面に残っているか酸化水素を除去してください。

6. プローブをすぐに再使用しない場合は、プローブが再汚染されないように保管してください。